



須崎工業高等学校

高校を卒業し、見知らぬ地で一度面接しただけの会社で働くという想像する。

生活は一変し、責任を伴う仕事を与えられる。ホームシックになる人もいるだろう。夢もあるだろうが、相当の重圧で

あることに違いない。求人を出す企業が教え子任せられる会社かどうか、学校側も積極的に心血を注ぐ。

来春卒業予定の高校生の採用選考が先月16日、解禁された。今年の求人倍率は全国で1・75倍(7月末)。高知県も1・45倍(同)と、統計を始

話題

将来を任す

安藤一彦社長が話す。ただ、その声のトーンは明るい。採用解禁日早々、宿毛工業高校と須崎工業高校から2人の採用を確保できたからだ。

この会社、高知ゆかりの企業でもないのに1992年から25年間、ずっと宿毛工に求人を出し続けている。90年に入った社員が親族が同校の就職担当だった縁を大切に育んできた。

離職率の高い職種。同社はこれまで高知から約20人を採用し、今残るのは9人。だが安藤さんは「この業界、高卒新採で半数近く残るのはかなり多い。それ以上に、うちを辞めて同業他社に移った子が多い。それが誇り」。採用面接を振り返って言う。

「宿毛の子は腕白で、須崎の子は物静か。タイプは違えど、真面目な子が多くてくれた。うちも、学校や親御さんの信頼に応えんとね」

(佐藤邦昭)



頑張れ 3年生！！

須崎工業高生は企業からも大きな期待を受けています